



橋本健一郎氏
・アルミニウム
橋本 健一郎 氏リポート②

■前月の国内指標
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比九・五%減の六万三、一一〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によるところ、銅電線出荷量は前年比五・六%減の六万〇、四〇〇tであった。

ナス材料もあったが、九月開催分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨がやや景気に配慮した中身と受け止められ緩和的な金融政策が続

くとの見方が台頭したこと、ICSGの来年の需給見通しを一三万トンの供給不足に見直したことからLME銅相場はU.P.、十月十五日時点で五、二七八ドル(セツル)と月初価格より一八五ドルU.P.の前半締めとなつた。

後半は、先日発表の中国貿易統計の悪化を受け金融緩和観測が台頭したこと、中国人民銀行は政策金利を〇・二五%、預金準備率を〇・五〇%引き下げたこと、グレンコアの銅減産が四五万トンまで拡大する旨発表したことなどのプラス材料もあつたが、一ヶ月の中国国有企業利益は前年比八・二%減の一兆七四〇〇億元だった事、中国経済減速感に中国株の久々の急落が追い打ちとなり、さらにドル高、原油の大幅続落で売りが売りを呼ぶ展開となつたことからDOWN、十月五日現在、後半スタート価格から一七九ドルDOWNの五、一六五・五ドル。銅建値六七万円のスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一二〇・八二一→一二二・〇三(円)

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販

売台数(軽除く)は前年比〇・二%増の二四万〇、八八九台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・六%増の七万七、八七二戸であつた。

◆貿易関連指標

輸出 財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気

銅が八・四%増の五万五、一〇一t、スクランプが四一・六%減の一萬五、五八一t。

輸入 輸入は電気銅が前年比五六・四%減の一、〇〇三t、スクランプが三・二%減の八、一三三t。

原料需給は引き締まる可能性も

橋本金属
・アルミニウム
橋本 健一郎 氏リポート②

十月前半は、中国連休明けで警戒感が漂う中、十月のユーロ圏投資家センチメント指数は一・七に低下、予想は一・六だった事などのマイナス材料もあったが、九月開催分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨がやや景気に配慮した中身と受け止められ緩和的な金融政策が続

くとの見方が台頭したこと、ICSGの来年の需給見通しを一三万トンの供給不足に見直したことからLME銅相場はU.P.、十月十五日時点で五、二七八ドル(セツル)と月初価格より一八五ドルU.P.の前半締めとなつた。

後半は、先日発表の中国貿易統計の悪化を受け金融緩和観測が台頭したこと、中国人民銀行は政策金利を〇・二五%、預金準備率を〇・五〇%引き下げたこと、グレンコアの銅減産が四五万トンまで拡大する旨発表したことなどのプラス材料もあつたが、一ヶ月の中国国有企業利益は前年比八・二%減の一兆七四〇〇億元だった事、中国経済減速感に中国株の久々の急落が追い打ちとなり、さらにドル高、原油の大幅続落で売りが売りを呼ぶ展開となつたことからDOWN、十月五日現在、後半スタート価格から一七九ドルDOWNの五、一六五・五ドル。銅建値六七万円のスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一二〇・八二一→一二二・〇三(円)

◆自動車販売台数

日本自動車工業会によると、自動車販売台数は前年比二・六%減の八五万一、一七七台であつた。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・六%増の七万七、八七二戸であつた。

◆貿易関連指標

輸出 財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が八・四%増の五万五、一〇一t、スクランプが四一・六%減の一萬五、五八一t。

輸入 輸入は電気銅が前年比五六・四%減の一、〇〇三t、スクランプが三・二%減の八、一三三t。

【住宅着工数】

【自動車販売】

十月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二四万〇、八八九台、前年比〇・二%増。一方月ぶりプラス。うち乗用車〇%、貨物一・一%増、バス八・三%増。

【住宅着工数】

十月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二四万〇、八八九台、前年比〇・二%増。一方月ぶりプラス。うち乗用車〇%、貨物一・一%増、バス八・三%増。

【自動車販売】

・平成二十七年九月の住宅着工戸数は七万七、八七二戸で、前年同月比で二・六%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九〇・〇万戸(前年比三・三%減)となつた。
・住宅着工の動向については、前年同月比で七月連続の増加となつておらず、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみていく。
・反動減の影響が大きかつた持家は、前年同月比で五か月連続の増加となつた。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(六面へ続く)

(四面より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比九・五%減の六万三、一一〇tと七力月連続マイナスで、昭和五十二年九月以来の低水準。このうち、内需は五万一、七三一tで七・八%減と一力月連続マイナス、輸出は一万〇、三七九tで一七・一%減と六力月連続マイナス。品種別では、銅条は二万〇、七三〇tで八・四%減と五力月連続マイナス、黄銅棒は一万四、四二四tで二・七%減と一四力月連続マイナス。

【銅電線出荷量】

前年比五・六%減の六万〇、四〇〇t。このうち、国内が四・五%減、輸出が三〇・六%減。出荷部門別では、通信一・一%増、電力七・五%増、電気機械一〇・一%減、自動車四・三%減、建設電販四・一%減、その他内需五・八%減。

【輸出】電気銅輸出が前年比十八・四%増の五万五、一〇一t。銅スクラップは四一・六%減の一萬五五八一t。

【輸入】電気銅が五六・三%減の一〇〇三t。スクラップは三・二%減の八、一三三t。

【見通し】

自動車は生産が前月に続き大減少の二・六%減。十月の国内販売台数が前年比〇・二%増、生産が一五力月連続マイナス、販売が一力月ぶりプラス。生産が一年間以上前年割れとなる中、販売の方が一力月ぶりに再びプラスに。今後販売のプラスが続くか注視が必要。

平成二七年九月の住宅着工戸数は七七、八七二戸で、前年同月比で二・六%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九〇・〇万戸（前月比三・三%減）となつた。

・住宅着工の動向については、前年同月比で七力月連続の増加となつておらず、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

・反動減の影響が大きかつた持家は、前年同月比で五力月連続の増加となつた。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。一般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は七力月連続マイナスの前年比九・五%減。昭和五十二年以来の低水準。

需要の多い銅条が、五力月連続マイナス。黄銅棒が三力月連続一万五千t台割れ、輸出も前月に続き減少が続き六力月連続マイナス。輸出が六力月連続マイナスの一七・一%

伸銅品生産は輸出に支えられてきた面もあり今後の輸出動向注視。

・電線は輸出が四力月連続二桁減少。期待の建設電販のマイナス受けて全体として減少。

・銅輸出は一二〇～一二二円（TTM）のレンジ内円安トレンドから地金は増加。スクラップは内需の発生難を受けて減少した。

・銅輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から大幅減少。スクラップ同様に大幅減少した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は月を通じて建値が安定したもの、中国連休明けへ警戒感から過在庫分が放出したのではないか。

伸銅品生産の低調に伴う発生薄のトレンドは変わらないが、メーカーもさすがに原料不足から需給は引き締まつてくるのではない

か。

【価格・為替予想】

今月は、基本に立ち返つて中国の金融および景気対策問題と米国の利上げ問題に左右される。

中国当局は第一三次五力年計画でのGDPを六・五%増とし、中国人民銀行は政策金利を〇・二五%，預金準備率を〇・五〇%引き下げたことは、ある程度の評価に値する。

ただこれだけで年内を乗り切れる可能性は低く、新たな公共事業などの景気対策が期待される。

中国当局は第一三次五力年計画でのGDPを六・五%増とし、中国人民銀行は政策金利を〇・二五%，預金準備率を〇・五〇%引き下げたことは、ある程度の評価に値する。

ただこれだけで年内を乗り切れる可能性は低く、新たな公共事業などの景気対策が期待される。

米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でF R B イエレン議長が十二月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今後の動向に注目。

それらを踏まえた十一月の銅価格は、中国当局が景気対策に関してなんらかの前向きなコメントを発し、米国が今月の利上げを行わなかつた場合、十月高値の五、四〇〇ドルを予測。いずれかの場合五、二〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合もう一段安値の五、〇〇〇ドル。

為替は、米F R B の利上げについて新たに十二月説が台頭している。中国株の暴落も落ち着き、E C B は追加金融緩和に前向きなことを考えれば利上げの可能性がある。

それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが加速判断から大幅円高の一八円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二一円台。

銅建値に關しては六三〇～七〇〇円程度と予測している。